

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190201202), 法人名 (社会福祉法人 豊生会), 事業所名 (グループホームひかりの家 あやめ), 所在地 (札幌市東区東雁来12条4丁目1-12), 自己評価作成日 (令和2年12月28日), 評価結果市町村受理日 (令和3年3月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご入居者様が個々に送ってきた生活を大事にするために生活歴や趣味など、細やかな情報収集を行いながら、楽しみのある生活を送ることができるよう、自己選択の視点を忘れずに個人に合わせた活動提供を行っている。
・施設内に併設している、ひかりの保育園や小規模多機能型居宅介護事業所ひかりのや同敷地内にある特別養護老人ホームと交流を積極的に行いながら、ご入居者様に楽しみや刺激のある生活を送っていただけるよう支援している。
・ユニット内の装飾や行事を工夫し、季節感を感じながら生活を送れるよう支援している。
・医療との連携(訪問診療や訪問看護)を密に取り、ご入居者様の小さな体調変化も見逃さずに安心した気持ちで生活を送れるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0190201202-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年1月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 運営の基本事項(環境や設備等の機能性・至便性等): 併設施設(保育園・小規模多機能型事業等)2階部分に2ユニットホームがあり、職員室と介護機能設備を中心に、サンルーム・キッチン・居室を配置。居室からの至便性が良く、東雁来公園を望み、自然環境も良い。
2) 職員の介護姿勢・態度: 職員は法人理念等介護の基本に準じて、利用者本位で自立を支え、その人らしさを生かす介護支援に専念している。
3) 家族の介護への好感: 家族は来訪が制限される状況にあって、きめ細かで、丁寧な連絡や生活状況説明等の連絡に、高い好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況: 通例は自治組織、包括支援センター、家族等の参会の下に、定期に開催して、日々の運営状況の説明を得て、意見等を運営に反映している。
5) 地域組織・機関等との連携: 通例は併設保育園・小規模多機能事業等との関連を深めるとともに、地域組織との連携(行事・会議参加等)の強化に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を見やすい所の掲示しスタッフ間で共有し実践に繋げている。	法人理念「地域に根差した豊かな医療と福祉を創造」を基本に、利用者の生活歴・趣味等を活かし、その人らしく、楽しみある日々を送れるよう、職員は理念を共有して真摯に介護に専念している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・近隣の方々や保育園などとの交流を行ってきたが、コロナ禍により交流の機会が制限されている。	ホームは地域の大きな「東雁来公園」を背景に、保育園・多機能ホーム等併設、近くに特養、市住宅のある地域に在って、相互の交流と支え合う活動で繋がりがあがる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・広報等で発信している。コロナ禍で制限があるが町内活動、運営推進会議、消防訓練や保育園、他施設との交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・取り組み状況の報告や地域情報の収集、ご家族から意見を伺いサービス向上に努めている。	会議は定例に開催。包括支援センター、町内会、家族、併設関連施設の要員と共に、運営状況の詳細(利用状況・行事・事故・地域情報等)を報告して、各位の意見・意向を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・連携を図りながら取り組んでいる。	推進会議での職員の定着さ等運営事項に関する包括支援センターの意見等を踏まえるとともに、担当行政の意向・情報等に留意した運営に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修等に参加し拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・個々の尊厳を尊重しその方がその方らしく生活できるよう日々ケアを行っている。	身体拘束委員会は定例に開催して、ホーム運営の介護の基本を振り返り、職員定例諸会議に結果を報告するなど、解決課題の周知に努め、利用者の介護を損ねることのないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等に参加し虐待防止に努めている。 ・ユニット内でも学んだことを共有し未然に防ぐことを徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者様の立場に立って話し合いができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・一方的な説明にならないように要望や疑問などを聞き十分ご理解いただけるように対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置している。 ・ご家族の「声」を面会の際に尋ねたり日常的に入居者様から必要に応じて聞き報告をしている。	家族の意向反映には、推進会議の家族参加や訪問時(通例は)に、利用者の生活状況や家族の相談事項に真摯に対応し、状況報告や意向の傾聴に努めて応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に2回面談を行っている。 ・困っていることはないか、要望等意見交換の出来る環境になっている。	定例のユニット会議やカンファレンス会議での専門的意見を聞き留めるとともに、年2回の個別面談の機会を設けて、その意向や資質の向上を図り、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・現場の状況の把握に努めるなど現場職員と同じ目線に立ち環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修を行っている。 ・ケアの力量に応じて研修の参加や指導の継続を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人内で研修があり交流している。現在コロナ禍で実現できていないが他施設見学やユニット交換研修など行っていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・アセスメントを行い個々のケアプランに反映している。 ・ご本人やご家族の思いを聞きながらその方らしく生活ができるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・コロナ禍のため面会制限がある中、不安を抱えていることを念頭に置き、関係作りのため意見を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族のニーズをきちんと聞き、可能な限りサービスに取り入れられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・お世話ではなく、あくまで一人一人の生活が自立したものになるよう支援し時間を共にできる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族のニーズを取り入れながら施設で出来ることを行っている。 ・関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍で外出や交流が難しい状況だが、居室内や身に付ける物など、馴染みのある物に触れつつ普段のコミュニケーション等から感じられるよう対応している。	通例は家族の訪問頻度もよく、家族相互の馴染みの関係支援に留意した支援。また個々の生活歴などを勘案して、話題にするなどに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士が関わり合えるよう努めている。 ・トラブルや孤独感なく生活できるよう対人関係に配慮すると共にスタッフが関わりを持てる架け橋となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・その後の状況など必要に応じて確認したり相談ができるよう対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメントを行いケアを行っている。 ・ご家族からも情報収集をこまめに行い、ユニット内で共有・検討している。	入所以来の個人・生活情報を基本に、アセスメントの更新を図り、職員相互が共有に努めるなど、また、時に家族からの支援を得るなど、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人から聞き取り困難な場合は書類やご家族から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活リズムや日々のADLの把握に努めサービスを提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・意見やアイデアを出し合っている。 ・チームで情報を共有しその方らしい生活が営めるようプランが作られている。	介護計画・変更計画の作成に当たっては、定例モニタリング会議等の各職位の判断や意向記録を基に、計画作成者を核にチームでの作成に当たっている。また家族の意向も合わせ、結果の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・生活記録や連絡ノートを活用し情報を共有、ケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・サービスの多機能化に取り組んでいる。 ・個々に応じたプランニングを行い、その方らしく生活できるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍のため制限がある中できる限りの対応を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・2週に1回訪問診療を行っている。 ・希望のかかりつけ医の病院がある場合はそちらを利用できるよう対応している。	かかりつけ医のある場合はこれを支援するとともに、協力医療機関の2週に1回の訪問診療を得て、健康管理等に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週に1回訪問看護が入っており、随時情報を共有できるようユニット内で共有し他職種に迅速に相談できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院期間中も、その方の状況が分かるよう連携をこまめに図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・方針について事前にご家族に説明を行っている。また支援を行っている。 ・看取りケアをチームで行っている。	重度化等の対応には、入所契約時に、「指針」に基づき合意を得ており、個々の心身の状況の変化に応じて、家族・医療機関等との協議の上、最適対応を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時対応は研修を定期的に行い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を行っている。 ・協力体制を築き対策している。 ・災害マニュアルを作成している。	災害対策については、防災官署の協力を得て、災害マニュアルを作成し、年2回の想定訓練を実施している。職員体制・協力体制に留意し、防災機器の定期点検、備蓄等に配慮している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・敬う気持ち、自尊心に配慮した言葉かけを行っている。	法人理念を始め、利用者対応は介護の基本と受け止めて、個々の誇りや尊厳を損なうことのないよう、言葉かけ等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・その方らしく生活できるよう、自己決定しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々の生活リズムに沿ってサービスを提供している。 ・多少優先する場合はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自己選択できる楽しみを持っていただけるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・色合いや盛り付けの工夫、メニューの説明を行い楽しみに繋がるよう対応している。 おやつ作りなどを手伝っていただいている。	利用者個々がおいしく、楽しい食事の機会とするよう、心身の状況や個々の嗜好等に留意している。また手伝える方の協力も得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人に応じて食事水分摂取に繋がるよう声掛け、工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレの利用の声掛けや誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄ができるようケアを行っている。	排泄は自立支援を基本に、職員相互で利用者個々の排泄パターンの共有に努めて支援している。また、着衣等にも留意して、時に家族と相談した介護に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・一人一人排便コントロールを行いその方に合った方法で調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・その方の希望やタイミングに合わせて順を変えたり時間を変えている。	入浴気分を楽にして、個々が楽しく安らぎを得る入浴となるよう努めている。個々の気分やタイミング等促す対応に気配りも良い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・無理なく生活できるよう休憩時間や入眠時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・いつでも確認ができるよう薬情を保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人できることを活かしたレクや家事作業などを日常的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍のため自粛している。	コロナ禍対応は、日常生活のリズムに変化を生じかねないが、隣接する「東雁来公園」があり、自然環境に恵まれ、四季の変化を楽しめる環境にある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・希望があり管理が可能な方は金銭や財布等所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望がある際や連絡事項がある際に家族と入居者様とで電話できるよう対応している。 ・あまり無いように思う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有部分は清潔さを保ち、生活感を取り入れている。 ・居間に季節感が分かるような飾りつけを行っている。	職員室・介護機能設備を囲み両側に居室を配置、居室に面してサンルーム・キッチン・居間には、気楽に安らげる設備がある。居間等が「東雁来公園」に面して眺めが広がり、季節感を味わえ、温・湿度と採光の管理もよく設えてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・椅子の設置場所などを工夫しその方にとって過ごしやすい場となるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みのある物を置いたり移動し易い動線を作ることで過ごしやすい空間造りを行っている。	個々の居室は家族の協力を得て、利用者馴染みの家具・備品等を設え、それぞれに合った飾りつけなどの支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・できることを役割りとして担ったり、日時を見やすくするなどの工夫を行っている。		